データを読みこなす　データの動きやその理由をまとめています。

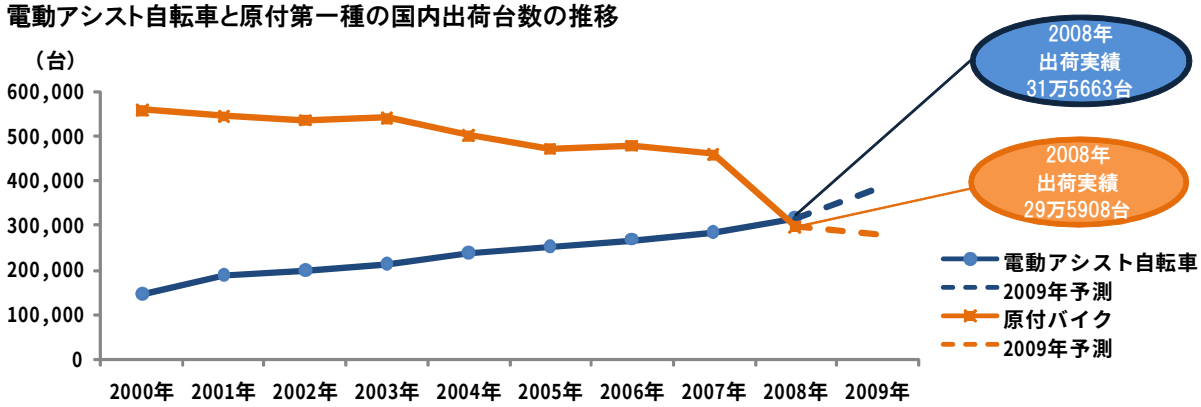
人気の電動アシスト自転車
～原付バイクの低迷を横目に“快走”～

人気を集める電動アシスト自転車

健康志向や環境意識の高まりなどを背景に、自転車を利用する人が増えています。特に、電動アシスト自転車は、坂道などで楽にこぐことができる利便性が評価され、通勤・通学、買い物などの際の「日常の足」として人気が高まっています。

（社）自転車協会「会員自転車統計」および（社）日本自動車工業会「販売・出荷統計（二輪）」によると、2008 年の電動アシスト自転車の国内出荷台数は 31 万 5663 台で、原付バイクの 29 万 5908 台を初めて上回りました。2009 年以降、その差はさらに広がると予測されます。

電動アシスト自転車と原付第一種の国内出荷台数の推移



（出所：（社）自転車協会「会員自転車統計」および（社）日本自動車工業会「販売・出荷統計（二輪）」を基に作成）

（注）2009年の予測値は、2009年1～9月の出荷台数（電動アシスト自転車：28万7409台、原付第一種：20万8293台）を基に算出しています。

電動アシスト自転車普及の背景と今後の展望

2008 年 12 月まで、電動アシスト自転車では、ペダルをこぐ力に対するモーターが補助する力の比率（アシスト比率）は、最大で 1:1 と制限されてきました。しかし、2008 年 12 月に道路交通法施行規則が改正され、時速 10 キロメートル未満の低速時において、アシスト比率が最大で 1:2 に緩和されました。これにより、電動アシスト自転車の利便性がさらに高まりました。

最近では都市部を中心として企業でも電動アシスト自転車の利用が活発化しています。これは、自動車や原付バイクに対する駐車違反取り締まり強化への対策や、税金・保険料などの維持費が削減できることが理由となっているようです。例えば、コピー機会社やエレベーター会社などのメンテナンス要員の移動や、宅配業者の荷物の集配などに電動アシスト自転車が利用されています。こうした業務用の利用に対して、故障やバッテリー切れの際に連絡を受けて駆けつけるロードサービスを手がける企業も現れています。また、駅で電動アシスト自転車をレンタルする JR 九州の「楽チャリ」のように、観光地を中心に移動の足として電動アシスト自転車のレンタルサービスを行う企業も出てきています。

（財）自転車産業振興会「第 42 版自転車統計要覧」によると、電動アシスト自転車の最多販売価格帯は 7 万 1 円～10 万円（65.8%）となっており、価格の高さが普及拡大に向けた一つの課題となっています。今後、販売価格が引き下げられれば、電動アシスト自転車の出荷台数は一層の増加が見込まれます。

電動アシスト自転車の販売価格帯および販売台数構成比率

販売価格帯	40,001～50,000円	50,001～70,000円	70,001～100,000円	100,000円以上
販売台数構成比率	0.3%	14.2%	65.8%	19.7%

（出所：（財）自転車産業振興会「第42版自転車統計要覧」）

（注）全国9地域、100店舗の標準的な自転車小売店を対象とした調査（2007年3月～2008年2月）の平均です。